日本看護協会、日本医療機能評価機構医療事故防止事業部、
日本医療安全調査機構医療事故調査・支援事業部、
日本医療機能評価機構産科医療補償制度運営部、日本訪問看護財団、
日本助産評価機構が、医療安全に関する最新情報を紹介します。

医療安全トピックス TOPICS

Vol.187

田村 真子・宮澤 綾乃
一般社団法人 日本医療安全調査機構
医療事故調査・支援事業部

医療事故の再発防止に向けた警鐘レポートNo.5「血管内治療時の大腿動脈穿刺に伴う後腹膜出血による死亡」について

医療事故調査・支援センター（日本医療安全調査機構）では、医療事故の再発防止に向けて、さまざまな活動を展開しています。今号では、2026年3月に公表した医療事故の再発防止に向けた警鐘レポートNo.5「血管内治療時の大腿動脈穿刺に伴う後腹膜出血による死亡」について紹介します。

医療事故調査・支援センターに報告された医療事故のうち、血管内治療に関連した事例は増加傾向にあり、血管内治療時の大腿動脈穿刺に伴う後腹膜出血による死亡は7件ありました（図表1）。

●分析対象7事例の特徴

大腿動脈穿刺では、通常、穿刺位置が鼠径靭帯より足側になりますが、今回の対象事例では、鼠径靭帯より頭側に穿刺していた（以下：高位穿刺）と考えられた事例が6例ありました（図表2）。また、心停止・呼吸停止後に後腹膜出血と診断された事例が4例、死亡後に判明した事例が2例ありました。

●血管内治療後の血圧低下や腰背部痛は後腹膜出血の徴候の可能性

対象事例では、血管内治療後に血圧低下、頻脈、腰背部痛、腹痛、嘔気、嘔吐、冷汗、見当識障害などの症状が出現していましたが、刺入部の出血や腫脹は認められませんでした。

【図表1】警鐘レポートNo.5（1ページ目）